

牛痘種痘法の鼻祖中川五郎治に関して

誤って伝えられていること

松木明知

本邦における牛痘種痘法の鼻祖中川五郎治に関して、先達の業績を無視し、勝手に解釈して史実を誤り伝えている研究者が多いので注意を喚起したい。

一、本名について

中川五郎治の「中川」姓は彼がロシア船に拉致され尋問された際、突差に答えた偽名であり、本当の姓は小針屋である。演者の研究によって祖父は佐兵衛、父は佐助であり、五郎治本人は佐七であることが明らかにされた。

二、中川五郎治の墓について

五郎治がどこに葬られたかを分らないとする論文や記事が現在でも散見する。中川家の塋域は松前町の法源寺と函館市の高龍寺、川内町の泉龍寺にある。法源寺には元来二基の墓碑があったが、後に言及する中川五郎治の孫のよし（雄三郎の妹）の婿、初代中川栄吉が、二基の中、五郎治の息子「市三郎」の墓を高龍寺に移転した。残った一基は中川五郎

治の両親の墓である。中川五郎治の墓は元来なかったものであり、したがって中川五郎治は両親の墓に葬られたことに間違いはない。必ずしも一世代に一基の墓が新規に建てられる訳ではないからである。

三、高龍寺の中川家の墓誌について

高龍寺の中川家の墓は、松前町の法源寺から移転した五郎治の息子「市三郎」の墓であったが、最近新しい墓碑に改められた。しかし墓誌には五郎治の父親である「大安心徹居士」の俗名を誤って五郎治と刻している。これは同家にそのような誤って伝えられているためである。系譜的には誤りであるが、プライバシーの問題もあり、これ以上の言及は避けたい。

四、中川五郎治の肖像について

中川五郎治の肖像なるものが伝えられている。それを五郎治の研究者であった故阿部龍夫博士が、その著『中川五郎治と種痘伝来』の中に採用したため、これが誤って普及した。札幌で行われた第九七回の吉田信会長も会長講演の中でこの肖像を用いていたし、函館市医師会編のビデオ「医乃道乃標」や平成九年一月六日の北海道新聞の記事でもこの肖像を採用しているが、いずれも誤りである。阿部博士自身、その著の補遺とも言うべき論考において、この肖像は五郎治ではないと否定しているのであるから、後続の研究者は十分注意しなければならない。演者もこれまで繰り返しこのことに警鐘を鳴らしているが、多くの人たちは誤りを繰り返している。だれも先学の文献を十分に読んでいない証拠である。

この肖像が出来た経緯は、大正十三年、中川五郎治に贈位の沙汰があつたとき、当局が肖像などはないのかと中川家の人に求めた。それを受けて中川家の人たちが、初代栄吉をモデルに肖像を描かせたものである。この栄吉が婿である

から、全く他人をモデルに肖像を作製したものである。このことを考慮するとき、世間に流布している中川五郎治の肖像なるものは肖像的には中川五郎治とは全く別人であることは明らかである。注意してもらいたいものである。

(弘前大学医学部麻酔科)